NO.

017

哲学・倫理　失敗から学ぶ

Failure as a Teacher

失敗という名の先生

英文の音声

レベル ★★★ 難関　300語　熟語12個　目標3分　読んだ日　かかった時間　分　秒

1 Most of us ❶**are afraid of** failure. From an early age, we learn that a wrong answer means a lower score, and that to ❷**make a mistake** in front of others is embarrassing. It is hardly surprising, then, that many people would rather not try at all than risk failing, even though anyone who tries something new ❸**is bound to** stumble at times.

2 Yet failure, if we look at it carefully, is ❹**not so much the opposite of success as** a part of it. Anyone learning to ride a bicycle ❺**goes through** many falls first. Scientists test ideas that ❻**go wrong** far more often than they go right, and each failure provides information that could not have been obtained in any other way.

3 The difficulty lies in how we respond. When things go badly, it is tempting to blame others or to ❼**argue with** anyone who points out our errors. Another common reaction is a kind of ❽**sour grapes**: like the fox in Aesop's fable who decided that the grapes he could not reach were sour anyway, we tell ourselves that we never really wanted what we failed to get.

4 Some fields have learned to treat failure differently. In aviation, accidents and near misses are investigated carefully, and the findings are shared so that the same error is not repeated. The aim is to understand what happened rather than to punish. This offers ❾**food for thought** for schools and workplaces alike.

5 Learning from failure also requires kindness toward ourselves. If we can ❿**forgive ourselves for** our mistakes, we are more likely to examine them honestly. ⓫**After all**, nobody has ever learned to walk without falling down. Telling a child never to fail is pointless: you ⓬**might as well tell her never to grow as** tell her never to make mistakes.

語注　**embarrassing** 恥ずかしい・きまりが悪い　**stumble** つまずく　**fable** 寓話（動物などを使った教訓話）
aviation 航空　**near miss** （事故の）ニアミス・事故寸前の出来事

この英文の熟語 IDIOMS 12個｜番号は英文の中の番号と同じ。覚えたら □ に印

1 be afraid of ~ ～を恐れる □□□

of の後ろは名詞か動名詞。be afraid of ～ing（～するのではないかと恐れる）と be afraid to do（怖くて～できない）の違いが頻出。I'm afraid (that) ~ は「残念ながら～」。 例 *My little brother is afraid of the dark.* 弟は暗闇を怖がる。

2 make a mistake 間違える □□□

mistake は数えられる名詞。make mistakes（何度も間違える）、make a big mistake のように形を変える。do a mistake とは言わない点が頻出。by mistake（誤って）と区別。 例 *Everyone makes mistakes sometimes.* 誰でも時には間違える。

3 be bound to do きっと～する □□□

＝ be sure to do / be certain to do。bound は bind（縛る）の過去分詞で「～するように縛られている」＝必ずそうなる。be bound for ~ は「～行きの」。 例 *If you keep practicing, you are bound to improve.* 練習を続ければ、きっと上達する。

4 not so much A as B Aというよりむしろ B □□□

＝ B rather than A / less A than B。A と B の位置（どちらが筆者の言いたいことか）が和訳・内容一致で狙われる。言いたいのは B。 例 *He is not so much a teacher as a friend to his students.* 彼は生徒にとって、先生というよりむしろ友達だ。

5 go through ~ （苦難など）を経験する □□□

＝ experience / undergo。「通り抜ける」から、苦しい時期・手続き・試練を最後まで経験すること。「～を詳しく調べる」の意味もある。 例 *She went through many hardships in her youth.* 彼女は若いころ多くの苦難を経験した。

6 go wrong うまくいかない □□□

go＋形容詞で「（悪い状態に）なる」。go bad（腐る）、go mad（気が狂う）と同じ型。What went wrong?（何がまずかったの）は定番。 例 *Everything went wrong on the day of the trip.* 旅行の日はすべてがうまくいかなかった。

7 argue with ~ ～と言い争う □□□

with の後ろは人、議論の内容は about / over で表す（argue with him about money）。argue that S V は「～だと主張する」。 例 *I don't want to argue with you about this.* このことで君と言い争いたくない。

8 sour grapes 負け惜しみ □□□

イソップ物語『キツネとブドウ』から。手に入らないものを「どうせ価値がない」とけなす態度。It's just sour grapes.（ただの負け惜しみだ）。 例 *He says he never wanted the prize, but that's just sour grapes.* 彼は賞なんか欲しくなかったと言うが、ただの負け惜しみだ。

9 food for thought 考えるべきこと □□□

直訳「思考の食べ物」＝考えるきっかけになる材料。give / offer food for thought の形が多い。本や話の感想でよく使う。 例 *His speech gave us a lot of food for thought.* 彼の話は私たちに考えるべきことをたくさん与えてくれた。

10 forgive A for B B のことで A を許す □□□

for は「理由」。thank A for B（B のことで A に感謝する）、blame A for B（B のことで A を責める）と同じ形。forgive-forgave-forgiven。 例 *Please forgive me for being late.* 遅れたことを許してください。

11 after all 結局 □□□

2 つの意味がある。①（予想に反して）結局（He came after all.）②（理由を補って）何しろ～だから（文頭）。本文は②。文中での位置に注意。 例 *Don't be too hard on him. After all, he's only a child.* 彼にあまり厳しくしないで。何しろまだ子どもなんだから。

12 might as well A as B B するくらいなら A したほうがましだ □□□

「B するのは A するのと同じくらいばかげている」という皮肉。A・B とも原形。might as well do（～した方がいい）単独の形も会話で頻出。 例 *You might as well talk to a wall as try to persuade him.* 彼を説得しようとするのは、壁に話しかけるのと同じだ。

内容一致問題 QUESTIONS

英文を読んで、それぞれの問いに対して最も適切なものを 1〜4 から 1 つ選びなさい。

問1 第 2 段落で筆者が述べている失敗の捉え方はどれか。 [ ]

① 失敗は成功の反対であり、できるだけ避けるべきだ
② 失敗は成功の反対というより、成功の一部である
③ 科学者の考えはたいていうまくいく
④ 自転車に乗るのは転ばずに覚えられる

問2 第 3 段落の「キツネ」の例が示しているものはどれか。 [ ]

① 手に入らなかったものを、本当は欲しくなかったと思い込む反応
② 失敗の原因を詳しく調べる態度
③ 他人の誤りを指摘する勇気
④ 何度でも挑戦し続ける粘り強さ

問3 第 4 段落によると、航空の分野での失敗の扱い方はどれか。 [ ]

① 事故を起こした人を厳しく罰する
② 事故寸前の出来事は報告しない
③ 事故などを詳しく調べて結果を共有し、罰するより理解することを目指す
④ 調査の結果は外部に知られないように隠す

熟語チェック CHECK 意味に合う英語の熟語を書こう（答えは「熟語」のページ）

1	～を恐れる	2	間違える
3	きっと～する	4	AというよりむしろB
5	（苦難など）を経験する	6	うまくいかない
7	～と言い争う	8	負け惜しみ
9	考えるべきこと	10	B のことで A を許す
11	結局	12	B するくらいなら A したほうがましだ

背景知識 「失敗から学ぶ」は入試の定番テーマで、教育・心理・組織論の文章として出る。航空業界では、事故だけでなく事故寸前の出来事も報告・分析して共有し、個人を罰するより原因を究明する仕組みが発達してきたとよく紹介される。sour grapes はイソップ物語『キツネとブドウ』に由来し、手に入らないものを価値がないと思い込む心理を指す。論説文では「失敗は成功の反対ではなく、その一部」という逆説的な主張がよく使われる。

全訳 TRANSLATION 色の太字は熟語の部分

1 私たちのほとんどは失敗を**恐れる**。幼いころから、間違った答えは点数が下がることを意味し、人前で**間違える**のは恥ずかしいことだと学ぶ。だから、新しいことに挑戦する人は誰でも時には**きっと**つまずく**もの**なのに、失敗する危険を冒すくらいなら、まったく挑戦しない方を選ぶ人が多いのも、少しも驚くことではない。

2 しかし注意深く見てみると、失敗は成功の反対**というよりむしろ**成功の一部**である**。自転車に乗るのを覚える人は誰でも、まず何度も転ぶことを**経験する**。科学者が試す考えは、うまくいくことより**うまくいかない**ことの方がはるかに多く、一つ一つの失敗は、他のどんな方法でも得られなかったであろう情報を与えてくれる。

3 難しいのは、どう反応するかだ。物事がうまくいかないと、他人を責めたり、自分の誤りを指摘する人と誰かれなく**言い争っ**たりしたくなる。もう一つのよくある反応は、一種の**負け惜しみ**だ。手の届かないブドウはどうせすっぱいのだと決めつけたイソップ物語のキツネのように、手に入れられなかったものを、本当は欲しくなかったのだと自分に言い聞かせるのである。

4 失敗を違ったやり方で扱うことを学んできた分野もある。航空の分野では、事故や事故寸前の出来事が詳しく調査され、同じ誤りが繰り返されないように、その結果が共有される。目的は罰することではなく、何が起きたかを理解することだ。これは学校にも職場にも同じように**考えるべき材料**を与えてくれる。

5 失敗から学ぶには、自分への優しさも必要だ。自分の失敗を**許す**ことができれば、それを正直に見つめられる可能性が高くなる。**結局のところ**、転ばずに歩けるようになった人など一人もいないのだ。子どもに決して失敗するなと言うのは無意味である。間違えるなと言う**くらいなら**、大きくなるなと言う**のと変わらない**。

要旨 失敗は成功の反対というより成功の一部であり、そこからしか得られない情報がある。責任転嫁や負け惜しみではなく、原因を理解し、自分の失敗を許して正直に見つめることが学びにつながる。

解答・解説 ANSWERS

問1 2 **問2** 1 **問3** 3

問1 正解 2 根拠は第 2 段落 failure ... is not so much the opposite of success as a part of it。not so much A as B は「A というよりむしろ B」で、言いたいのは B の「成功の一部」なので 2 が正解。1 はこの文の A の部分で、否定されている。3 は ideas that go wrong far more often than they go right と逆。4 は goes through many falls first と逆。

問2 正解 1 根拠は第 3 段落 we tell ourselves that we never really wanted what we failed to get。キツネが手の届かないブドウをすっぱいと決めつけたように、手に入らなかったものを欲しくなかったと思い込むので 1 が正解。2 は第 4 段落の航空の例で、キツネの例とは逆の態度。3 は自分の誤りを指摘する人と言い争う、という逆の話が出てくるだけ。4 は書かれていない。

問3 正解 3 根拠は第 4 段落 accidents and near misses are investigated carefully, and the findings are shared と The aim is to understand what happened rather than to punish。3 が正解。1 は rather than to punish（罰するのではなく）と逆。2 は near misses も調査されるとあり逆。4 は the findings are shared（共有される）と逆。A rather than B で、目指すのは A の「理解」である点を正確に読みたい。